



板倉、安塚で議会報告会。多様な意見次々と

9日、10日と板倉区、安塚区のコミュニティプラザで市議会主催の議会報告会・意見交換会が開かれました。いずれの会場も11人の市民の方が参加し、活発に発言してくださいました。以下は主な発言です。

- ◆ドライブレコーダーなど高齢者向けの補助金を出したが、それによってどの程度事故が減ったのか。
- ◆議会の様子を伝えるUチューブは長くなると、途中でCMが入って見にくい。編集できないのか。
- ◆消火栓は消防団員以外は使ってはならないとのことだが、団員OBもいる。なんとかならないか。
- ◆消火栓については、教育してもら

い、使ってもらえるようなシステムつくるべきでないか。

- ◆人口が減っているのに定数が減らないのはおかしい。(定数減の分)政策サポーターなどを議会が選んで対応すればいいのではないか。
- ◆議員は市民の代表だ。議会の定数を極端に減らすと市民の声が市政に届かなくなる。お金の問題だとか、(削減が)世間の流れだとかは関係ない。
- ◆32という現在の議員定数は多いと感じていない。それくらいいいないと、隅々まで住民の声を吸い上げていくことができないのではないか。
- ◆この先のことを考えたら減らした方がいいのではないか。市議会の活動(の情報)があまり入ってこない。少

数精鋭でもやれるのではないか。

- ◆明石市や岡山県の奈義町で人口増やしている。広報じょうえつ最後のページの「世帯数・人口」の欄を見るのが楽しみだ。
- ◆ここまでくると、手を打っても遅いと思っている。集会場処分するにもお金がかかる。こういうところにも補助金出してほしい。
- ◆どの集落でも出る人は出る。ただ、出た人のほとんどは旧上越市にいる。こうした人たちが元の家に戻る逆戻しに補助金を出すべきでないか。



日英共同訓練は憲法違反だ…市民団体が反対行動



新婦人、平和環境労組、上越地区労連、市民連合・上越などは11日、関山演習場で予定されている陸上自衛隊と英陸軍による日英共同訓練に反対する街頭行動をカニ池交差点で行いました。

この行動では、市民団体の代表が「訓練は憲法9条違反であり、市民の安全を守る保証もない」などと訴えました。イラストは馬場秀幸県議のスピーチ。

【バイカウツギ】アジサイ科の落葉広葉樹の低木。背丈は2m前後です。漢字で「梅花空木」と書きます。梅に似た花を咲かせることから、この名前になったものと思われます。花期は5月から6月です。白い花を咲かせます。花言葉は「気品」「回想」です。写真は11月5日、吉川区天林寺にて撮影しました。今回は狂い咲きです。

はしづめ法一の
活動レポート

No.2134 2023.11.19

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
である記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七八一回 鳥かご

青年団時代からお世話になっていたSさんが亡くなったというので、先日ご自宅に伺い、お参りさせて頂きました。

お参りした際、Sさんの遺影の話になりました。お連れ合いによると、Sさんの写真は帽子をかぶったものが多く、遺影に使える写真がなかなか見つからなくて困ったとのことでした。

でも、Sさんの顔が写っていれば、どういふ写真でもSさんの人懐こい、やさしい目は同じです。遺影は眼鏡をかけていませんでしたが、目を見ただけで、誰もが「これはSさんだ」とわかるものでした。

正直言うと、ここ一、二年Sさんに会っていませんでした。ですから、以前の元気だった頃の姿しか思い浮かべることができません。それだけに、お風呂に入るとき苦労したとか、トイレに行くにもお連れ合いの手を借りないと行けない状態になっていたという話を聞いて驚きました。

さらに驚いたのは、救急車で病院に運ばれ、しばらく入院することになるだろうと思っていたら、入院したその日の夜に亡くなってしまったということでした。病院では、「今夜が山だ」とか「もう一週間持つかどうか」などといった話は一つもなかったそうです。それが入院当日の夜に緊急連絡ですからお連れ合いも子どもさんもショックだったと思います。お連れ合いは、「びっくりして涙も出なかった」と言っておられました。当然だと思います。

お連れ合いからは、Sさんが大湊区のY商事に勤めていた当時の同僚の人との思い出話やその人の近況などを聞き、懐かしく思い出しました。どの人も私が知っている人たちだったからです。

話を聞いて、ふと目に入ったのは、居間の外に置いてあった小鳥を入れるための鳥かごです。縦一五羽、横三五羽、高さ二五羽ほどの小さな鳥かごでしたが、まだ

使っている雰囲気は漂っていました。それもそのはずで、鳥かごの中にいた小鳥がいなくなつてからまだ一日くらいしか経っていませんでした。

この鳥かごには、亡くなったSさんが世話をしていたヤマガラが入っていたといえます。お連れ合いによると、Sさんは体調を崩してから、一時間くらいかけて鳥かごの掃除、エサ作りなどをやっていたとのことでした。小鳥が好きだったのが一番の理由だと思えますが、このヤマガラの世話をすることが自分の仕事だとSさんは思い、その仕事をするのを楽しみにしていたのでしようね。

葬儀の日、お連れ合いだと思つのですが、この鳥かごの出入り口を開いたそうです。外へ出ていってもいいし、残つてもいいと思われたのでしょうか、中にいたヤマガラは開いた出入り口から外に飛び立って行きました。

それでも気になるのでしょうか、お連れ合いは、ひよっとすれば、また、ヤマガラは戻るかも知れないと思い、時々見ているそうです。でも、私が訪ねた日までは戻ってきていませんでした。ヤマガラは仲間たちがいる林のなかにいるのでしょうか。

その鳥かごのすぐ近くまで行き、中を見せていただいたら、小さな水入れの容器には水が残っていました。また、鳥かごの上にはきれいなオレンジ色の柿が置かれていました。甘柿ではないかとお連れ合いは言っておられました。少しとがっているところがあり、私には渋柿に見えました。

Sさんの家を訪ねてからすでに数日経ちました。鳥かごから外に出て行ったヤマガラはいまどこにいますのでしょうか。鳥かごの上にあるオレンジ色の柿は目印になります。私の勤ですが、この柿が熟す頃、ヤマガラが再び戻ってくるような気がするのです。Sさんのことを思い出して……。

4年ぶりに東京吉川会総会開催

東京吉川会総会が12日、4年ぶりに開催されました。会場は今回から松文山出身の人が起業した吉池本店ビル(御徒町)です。50数名が集まりました。



開会は12時から。常山正樹会長が4年間の動きなどについてふれ、再会を喜ぶ挨拶をされました。小田副市長が来賓を代表して親しみを込めた祝辞を述べました。副市長が代読した市長メッセージには尾神岳にも触れた言葉が入っていて、喜ばれました。

私は第2部の懇親会で挨拶、乾杯の音頭をとらせてもらいました。挨拶では、吉川区でも熊が出没していることやいまでもとれるサルナシ、ナツハゼ、エビヅルといった山の幸について話をしました。子ども頃の、食べた記憶を持っている人がけっこうおられ、みなさ

ん、懐かしく思い出してくださったようです。参加者の中には、前会長の平山勇さんや弟さんの文男さんなど、これまで総会に何度も参加されている人たちが元気な姿を見せてくださいました。また、山方出身のTさんのように、今回初めて参加された方もありました。テーブルを回っていて、参加されたみなさんがいまの吉川区にたいする郷土愛を持っていてくださることを感じました。ありがたかったし、うれしかったですね。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことでした。

	11月8日(水)	11月15日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.043	0.043
頸南消防署	0.067	0.063
東頸消防署	0.050	0.047
名立分遣所	0.057	0.050
高士分遣所	0.057	0.053

春よ来い

第七八一回 鳥かご

青年団時代からお世話になっていたSさんが亡くなったというので、先日ご自宅に伺い、お参りさせて頂きました。

お参りした際、Sさんの遺影の話になりました。お連れ合いによると、Sさんの写真は帽子をかぶったものが多く、遺影に使える写真がなかなか見つからなくて困ったとのことでした。

でも、Sさんの顔が写っていれば、どういふ写真でもSさんの人懐こい、やさしい目は同じです。遺影は眼鏡をかけていませんでしたが、目を見ただけで、誰もが「これはSさんだ」とわかるものでした。

正直言うと、ここ一、二年Sさんに会っていませんでした。ですから、以前の元気だった頃の姿しか思い浮かべることができません。それだけに、お風呂に入るとき苦労したとか、トイレに行くにもお連れ合いの手を借りないと行けない状態になっていたという話を聞いて驚きました。

さらに驚いたのは、救急車で病院に運ばれ、しばらく入院することになるだろうと思っていたら、入院したその日の夜に亡くなってしまったということです。病院では、「今夜が山だ」とか「もう一週間持つかどうか」などといった話は一つもなかったそうです。それが入院当日の夜に緊急連絡ですからお連れ合いも子どもさんもショックだったと思います。お連れ合いは、「びっくりして涙も出なかった」と言っておられました。当然だと思います。

お連れ合いからは、Sさんが大湊区のY商事に勤めていた当時の同僚の人との思い出話やその人の近況などを聞き、懐かしく思い出しました。どの人も私が知っている人たちだったからです。

話を聞いていて、ふと目に入ったのは、居間の外に置いてあった小鳥を入れるための鳥かごです。縦一五羽、横三五羽、高さ二五羽ほどの小さな鳥かごでしたが、まだ

使っている雰囲気は漂っていました。それもそのはずです。鳥かごの中にいた小鳥がいなくなつてからまだ一日くらいしか経っていませんでした。

この鳥かごには、亡くなったSさんが世話をしていたヤマガラが入っていたといえます。お連れ合いによると、Sさんは体調を崩してから、一時間くらいかけて鳥かごの掃除、エサ作りなどをやっていたとのことでした。小鳥が好きだったのが一番の理由だと思えますが、このヤマガラの世話をすることが自分の仕事だとSさんは思っていたのでしようね。

葬儀の日、お連れ合いだと思つのですが、この鳥かごの出入り口を開いたそうです。外へ出ていってもいいし、残つてもいいと思われたのでしようが、中にいたヤマガラは開いた出入り口から外に飛び立って行きました。

それでも気になるのでしょうか、お連れ合いは、ひよっとすれば、また、ヤマガラは戻るかも知れないと思い、時々見ているそうです。でも、私が訪ねた日までは戻ってきていませんでした。ヤマガラは仲間たちがいる林のなかにいるのでしょうか。

その鳥かごのすぐ近くまで行き、中を見せていただいたら、小さな水入れの容器には水が残っていました。また、鳥かごの上にはきれいなオレンジ色の柿が置かれていました。甘柿ではないかとお連れ合いは言っておられました。少しとがっているところがあり、私には渋柿に見えました。

Sさんの家を訪ねてからすでに数日経ちました。鳥かごから外に出て行ったヤマガラはいまどこにいますのでしょうか。鳥かごの上にあるオレンジ色の柿は目印になります。私の勘ですが、この柿が熟す頃、ヤマガラが再び戻ってくるような気がするのです。Sさんのことを思い出して……。

4年ぶりに東京吉川会総会開催

東京吉川会総会が12日、4年ぶりに開催されました。会場は今回から松え山出身の人が起業した吉池本店ビル（御徒町）です。50数名が集まりました。



開会は12時から。常山正樹会長が4年間の動きなどについてふれ、再会を喜ぶ挨拶をされました。

私は第2部の懇親会で挨拶、乾杯の音頭をとらせてもらいました。挨拶では、吉川区でも熊が出没していることやいまでもとれるサルナシ、ナツハゼ、エビヅルといっ

た山の幸について話をしました。子どもの頃、食べた記憶を持っている人がけっこうおられ、みなさん、懐かしく思い出してくださいようです。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことでした。

	11月8日(水)	11月15日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.043	0.043
頸南消防署	0.067	0.063
東頸消防署	0.050	0.047
名立分遣所	0.057	0.050
高士分遣所	0.057	0.053

桃園町内会、今年も「小さな作品展」



たいしたもんです。ね。柿崎区の桃園町内会が12日、5回目の作品展を開催しました。私は当日は東京だったので、前日、観させていただきました。毎回驚いていますが、1つの町内会の中にこんなにもたくさんの作者がいることに感心しています。来年も楽しみです。

春よ来い

第七八一回 鳥かご

青年団時代からお世話になっていたSさんが亡くなったというので、先日ご自宅に伺い、お参りさせて頂きました。

お参りした際、Sさんの遺影の話になりました。お連れ合いによると、Sさんの写真は帽子をかぶったものが多く、遺影に使える写真がなかなか見つからなくて困ったとのことでした。

でも、Sさんの顔が写っていれば、どういふ写真でもSさんの人懐こい、やさしい目は同じです。遺影は眼鏡をかけていませんでしたが、目を見ただけで、誰もが「これはSさんだ」とわかるものでした。

正直言うと、ここ一、二年Sさんに会っていませんでした。ですから、以前の元気だった頃の姿しか思い浮かべることができません。それだけに、お風呂に入るとき苦労したとか、トイレに行くにもお連れ合いの手を借りないと行けない状態になっていたという話を聞いて驚きました。

さらに驚いたのは、救急車で病院に運ばれ、しばらく入院することになるだろうと思っていたら、入院したその日の夜に亡くなってしまったということでした。病院では、「今夜が山だ」とか「もう一週間持つかどうか」などといった話は一つもなかったそうです。それが入院当日の夜に緊急連絡ですからお連れ合いも子どもさんもショックだったと思います。お連れ合いは、「びっくりして涙も出なかった」と言っておられました。当然だと思います。

お連れ合いからは、Sさんが大潟区のY商事に勤めていた当時の同僚の人との思い出話やその人の近況などを聞き、懐かしく思い出しました。どの人も私が知っている人たちだったからです。

話を聞いていて、ふと目に入ったのは、居間の外に置いてあった小鳥を入れるための鳥かごです。縦一五羽、横三五羽、高さ二五羽ほどの小さな鳥かごでしたが、まだ

使っている雰囲気は漂っていました。それもそのはずで、鳥かごの中にいた小鳥がいなくなつてからまだ一日くらいしか経っていませんでした。

この鳥かごには、亡くなったSさんが世話をしていたヤマガラが入っていたといえます。お連れ合いによると、Sさんは体調を崩してから、一時間くらいかけて鳥かごの掃除、エサ作りなどをやっていたとのことでした。小鳥が好きだったのが一番の理由だと思えますが、このヤマガラの世話をすることが自分の仕事だとSさんは思っていたのでしよう。

葬儀の日、お連れ合いだと思つのですが、この鳥かごの出入り口を開いたそうです。外へ出ていってもいいし、残つてもいいと思われたのでしようが、中にいたヤマガラは開いた出入り口から外に飛び立って行きました。

それでも気になるのでしょうか、お連れ合いは、ひよつとすれば、また、ヤマガラは戻るかも知れないと思い、時々見ているそうです。でも、私が訪ねた日までは戻ってきていませんでした。ヤマガラは仲間たちがいる林のなかにいるのでしょうか。

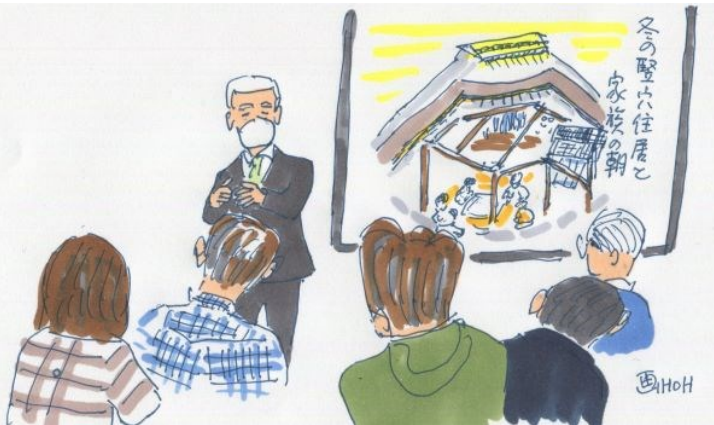
その鳥かごのすぐ近くまで行き、中を見せていただいたら、小さな水入れの容器には水が残っていました。また、鳥かごの上にはきれいなオレンジ色の柿が置かれていました。甘柿ではないかとお連れ合いは言っておられました。少しとがっているところがあり、私は柿柿に見えました。

Sさんの家を訪ねてからすでに数日経ちました。鳥かごから外に出て行ったヤマガラはいまどこにいるのでしょうか。鳥かごの上にあるオレンジ色の柿は目印になります。私の勘ですが、この柿が熟す頃、ヤマガラが再び戻ってくるような気がするのです。Sさんのこつを思い出し……。

縄文時代の食生活にも触れた講演

はーとぴあ中郷で4日開催された縄文文化講演会の講師は著名な考古学者・岡村道雄さんでした。

岡村さんは専門的なことを並べ立てるのではなく、当時の住民の暮らしぶりを思い出すことができるようにした話の展開でした。とくに食生活に触れた、「センマイ、ワラビなどはこの地域の和食の原点だ。ウルシの若芽も食べられる」「サルナシで酒を造った」などの話には惹かれました。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことでした。

	11月8日(水)	11月15日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.043	0.043
頸南消防署	0.067	0.063
東頸消防署	0.050	0.047
名立分遣所	0.057	0.050
高士分遣所	0.057	0.053



3日は3連休初日で文化の日の青空が広がったこともあって、市内各地で開催されたイベントは大勢の参加でにぎわいました。

左のイラストは安塚区総合事務所前で行われた大浦安の元気市での様子です。各地特産の野菜等を売る店も人気でした。